

この取付説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

本機取り付けのために必ず守っていただきたいことや、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

FUJITSU TEN

●本機はDC12V アース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様ディーゼル車などの24V車での使用はしない。火災の原因となります。

- 本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、阿呆者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けられない。交通事故や怪我の原因となります。
 - 車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、どこかと干渉や接触することがないように注意して行う。火災の原因となります。
 - 車体のヘルメットを使用しても機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しない。これらを使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。
 - 取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス(－)端子をはずす。プラス(＋)とマイナス(－)経路のショートによる感電や怪我の原因となります。
 - コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープなどでまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくこと事故の原因となり危険です。
 - 万一、異物が入った、水がかかった、煙りが出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談する。そのまま使用する事故、火災、感電の原因となります。
 - 視界や運転の妨げになる場所へは取り付けないでください。交通事故の原因となります。
 - ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴースル等の目を保護するものを使用する。破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。
 - 他社モニターと本機を組み合わせる場合は、他社接続機器メーカーが提示している警告・注意事項等を厳守してください。正しく動作しなかったり、事故の原因となります。

●本機の取付・配線には、専門技術と経験が必要です。
安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。
誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす
場合があります。

●コードが金属部に触れないように配線してください。
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因と
なることがあります。

- 必ず付属の取扱説明書に指定通り使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れることがあり危険です。
 - しっかりと固定できないことにより手振動の多いところへの取り付けは避けてください。外れて運搬の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。
 - 取付説明書で指定された通りに接続してください。正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。
 - 車体のねじ部分、シートレール等の可動部(コード類)をさみ込みないように配線してください。新車や中古により、事故や感電、火災の原因となることがあります。
- コード類が車体の高温部に接触すると被覆層が溶け、ショートし、火災、感電の原因となることがあります。

 - 本機の取り付け場所変更は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。取り外し、取り付けには専門技術が必要です。
 - 本機を車載用として以外には使用しないでください。感電や怪我の原因となることがあります。
 - 本機は、車庫入れや駐列運転の際に後退運転の参考となる車後方位置情報が、イタズラ等の他の目的では、使用しないでください。
 - 必ず周囲の安全を確認してから後退運転を行ってください。

作業前に構成部品が揃っているか確認してください。

※バックアイカメラコードは、取付作業性を考慮し、3Pコネクタ（オス-メス）でジョイントされています。

※ ① バックアイカメラ ×1

② クリーナー ×1

③ ブラケット ×1

④ 小ねじ (M3×6) ×2

⑤ 両面テープ (予備) ×1

⑥ コードレール ×6

⑦ バンドクランプ ×5

⑧ クランプ ×5

⑨ ハーネス固定テープ ×2

⑩ 防水クッション ×1

●バックアイカメラを過信しないでください。

- バックカメラは、障害物の確認のための補助手段として使用してください。
- 雨滴などがレンズ部に付着すると、映りが悪くなる恐れがあります。
- 自車状況（乗車人数・積載量）により、画面に映り出される位置が変化します。
必ず後方および周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 映り出される画面だけを見ながら後退すると、事故の恐れがあります。
必ずルームミラー、ドアミラーを併用し、後方および周囲の安全を十分確認してください。
- カメラレンズの特性により、画面に映る人・障害物は、実際の位置や距離と異なります。

●カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。

- カメラレンズへの直火やドライヤー、熱湯での急激な温度変化を与えると、故障や破損の原因になります。
 - 太陽光を直接長時間照射しないでください。焼き付け現象が残ることがあります。
 - 車庫後方画像を表示させた瞬間は、一旦白画面（接続する機器により異なります）になりますが、その後次第に安定します。
 - 長時間使用した場合、温度上昇により白キズや縦線が出ますが、CCDの特性によるものです。
 - 50Hz電圧地域の蛍光灯下では、画面のちらつき（フリッカ現象）が起こりますが故障ではありません。
- バック映像カメラ本体及びレンズ部分、ブラケット、カメラコードをアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリン等揮発性の薬品液で拭かなくてください。変形や変質、破損の原因になります。

- 磨き砂等が配合された洗剤で拭かずにください。キズの原因になります。
- レンズ部分が見えている場合は、水を含ませた柔らかい布などで軽く拭いてください。乾いた布で強くするとキズの原因になります。
- カメラコードにキズをつけないでください。キズ部分からカメラ内部に湿気や水が吸い込まれ故障や火災、感電の原因になります。
- バックアップカメラを取り付けた状態で洗車する場合は、車室内への水の侵入を防ぐ為に配線箱への直接放水は避けてください。
- バックアップカメラ本体に自動洗車機や高圧洗浄機などの高い圧力の水をかけないでください。カメラが落下したり、防水が不完全となり内部に水が侵入して故障や火災、感電の原因となります。
- カメラやブラケットなどは、定期的に点検してください。取り付けネジの緩みや陥り付けした部分が見えていないことを確認してください。取り付けネジの緩みがある場合は、増し締めをしてください。カメラが外れて落下し、歩行者等に接触したり、事故の原因となることがあります。
- 太陽光を直接映したり、強い光（太陽光のバンパーからの反射や対向灯等）が射入した場合、光源の上下に光の縦線（スミア）が見れることがあります。故障ではありません。

警告

- 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止める。電源コードの電流量がオーバーし、火災、感電の原因となります。
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。

[illegible]

- メインユニットに接続する前に各ユニットの取付及び配線を行ってください。
- 機種によりメインユニットの背面端子が異なります。必ず接続するメインユニットの取付説明書を参照してください。

取り付け上のご注意

- バックアイカメラのブラケットは、取付面が全面接着するように貼り付けてください。接着面積が少ないと走行中はがれる危険性があります。
- バックアイカメラ及びカメラコードが、バックドア開閉時に車両と干渉しないように取り付けてください。
- 視界や運転の妨げになる場所へは取り付けしないでください。交通事故の原因になります。

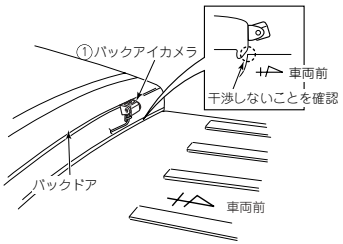
—取り付ける前—

- 湿気が多い時は、室外での取り付けはしないでください。
(粘着力が弱くなり、走行中にはがれる危険性があります。)
- 必ず組み合わせるメインユニット側の取付説明書もよくお確かめの上、取り付けてください。

—取り付け作業時—

- 走行しても大丈夫ではありませんが、24時間は絶対に水をかけたり、雨にあてたり、引っ張る等無理な力を加えないで自然放置してください。
 - 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。
- バックアイカメラ本体やレンズ部分には、ドライヤー等を使用しないでください。

- バックドア開閉時にバックアイカメラ及びコードが車両と干渉しないようにあらかじめ取付位置を確認してください。
- 両面テープのハクリ紙は、はがさないでください。



①変換ボックス

④スイッチ

①バックアイカメラ

③接続コード

②外部モニター

⑤ACC電源

⑥ボディアース

⑦緑

⑧黒

⑨赤

⑩接地

⑪RCAピンコード (別売)

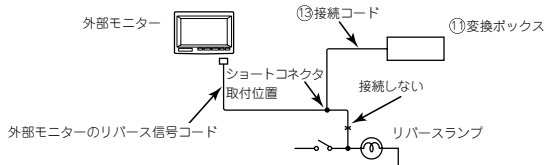
⑫外部モニター

※1外部モニターの
リバーシ信号コードへ接続

アドバイス ※1

外部モニターと本機を組み合わせる場合は、外部接続機器メーカーが指示している警告・注意事項等を厳守してください。正常に動作しなかったり、事故の原因となります。

外部モニターにリバース信号がある場合（ナビゲーション機能付きモニターを除く）：
付属のショートコネクタを使用して、他社モニターのリバース信号コードに接続してください。
その際、リバース信号コードは車両のリバース信号には接続しないでください。



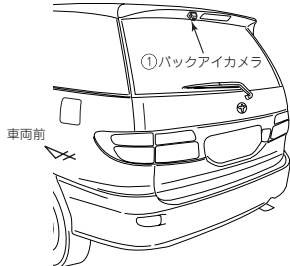
外部モニターにリバース信号がない場合またはナビゲーション機能付きモニターの場合：
接続しません。コードの先端にテープを巻いて絶縁処理をしてください。

1 バックアイカメラの取付位置を決める。

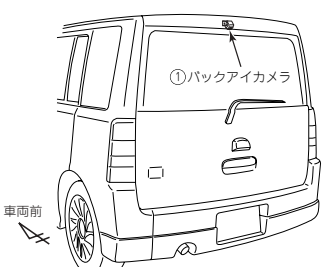
バックアイカメラの取付位置を決める際、以下の事に注意してください。

- バックアイカメラをテープ等で仮止めし、角度を調節して、車両後端が確認できる位置に取り付けてください。
一度取り付けたと両面テープの接着力が弱くなります。
- バックアイカメラは、ハイマウントランプなどの光がカメラレンズに入らない位置に取り付けてください。

—リヤスポイラー吊り下げ取り付け（例）—



—バックドア垂直取り付け（例）—

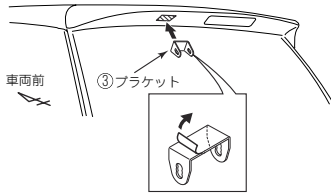


ーリヤスポイラーに吊り下げて取り付ける場合（例）ー

- 2 ブラケットを貼り付ける部分の汚れ、水分、油分等を付属のクリーナ（布）できれいにふき取る。
- 3 ブラケットの両面テープのハクリ紙をはがし、リヤスポイラーの平らな面へ取り付ける。

アドバイス

- 貼り付けた後は、確実に密着するようブラケットを十分押し付けてください。
- 気温が低い（20℃以下）と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。
- バックアイカメラ本体やレンズ部分には、ドライヤー等を使用しないでください。

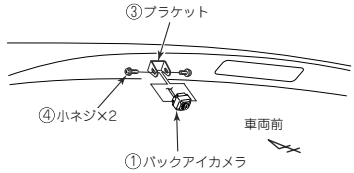


ーリヤスポイラーに吊り下げて取り付ける場合（例）ー

- 4 バックアイカメラをブラケットに取り付ける。

アドバイス

- 〔ECLIPSE〕印刷面が上になるように取り付けてください。

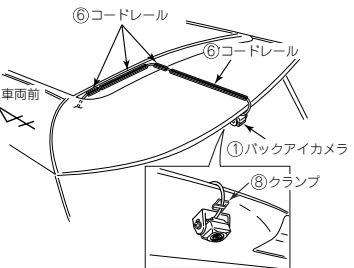


ーリヤスポイラーに吊り下げて取り付ける場合（例）ー

- 5 バックアイカメラコードをコードレール及びクランプで固定しながらバックドア内側まで引き込む。

アドバイス

- コードレールは、適当な長さに切って使用してください。



- 10 バックアイカメラコードをコードレール、バンドクランプ及びクランプで固定しながら配線する。

アドバイス

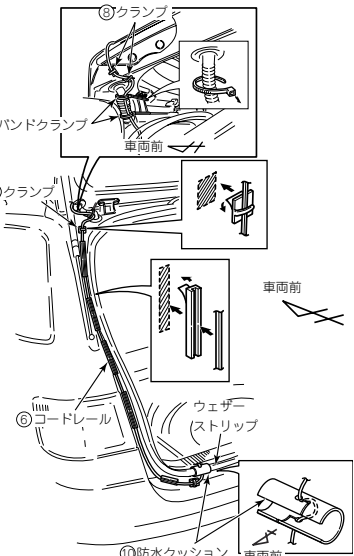
- コードレールは、適当な長さに切って使用してください。

注意

- バックドアを開閉したとき、バックアイカメラコードが引っ張られたり、クランプおよびバンドクランプが外れないことを確認してください。
- 雨水等の侵入を防ぐためトランク部分のコード引き回しには十分注意してください。

- 11 バックアイカメラコードを防水クッションのスリット部に挿入する。

- 12 防水クッションをウェザーストリップに巻き付けるように取り付ける。

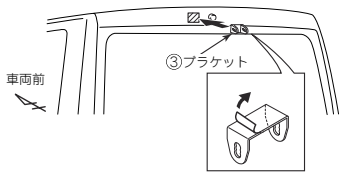


ーバックドア垂直面に取り付ける場合（例）ー

- 6 ブラケットを貼り付ける部分の汚れ、水分、油分等を付属のクリーナ（布）できれいにふき取る。
- 7 ブラケットの両面テープのハクリ紙をはがし、バックドア垂直面の平らな面へ取り付ける。

アドバイス

- 貼り付けた後は、確実に密着するようブラケットを十分押し付けてください。
- 気温が低い（20℃以下）と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。

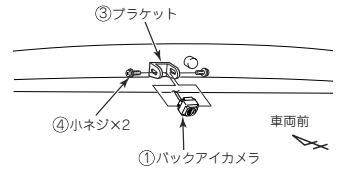


ーバックドア垂直面に取り付ける場合（例）ー

- 8 バックアイカメラをブラケットに取り付ける。

アドバイス

- 〔ECLIPSE〕印刷面が上になるように取り付けてください。

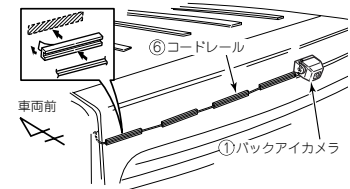


ーバックドア垂直面に取り付ける場合（例）ー

- 9 バックアイカメラコードをコードレールで固定しながらバックドア内側まで引き込む。

アドバイス

- コードレールは、適当な長さに切って使用してください。



- 13 バックアイカメラコードをハーネス固定テープで固定しながら配線する。

- 14 バックアイカメラコードを引き込むためにラゲージフィニッシュプレートにリブ等が無いことを確認してください。

アドバイス

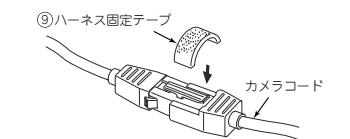
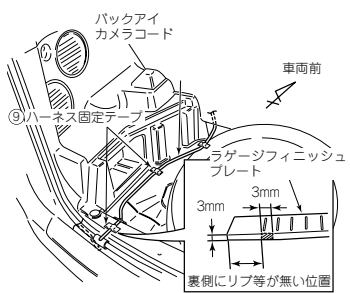
- ラゲージフィニッシュプレート切り欠き位置裏側にリブ等が無いことを確認してください。

注意

- 雨水等の侵入を防ぐためトランク部分のコード引き回しには十分注意してください。

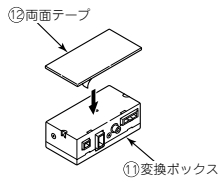
- 15 バックアイカメラコードをメインユニット取付位置まで配線する。

- 16 異音防止のためバックアイカメラコードのジョイント部（コネクタ部）にハーネス固定テープを巻き付ける。



変換ボックスおよびスイッチの取り付け (BEC105Gのみ)

- 1 変換ボックス裏面に両面テープを貼り付ける。

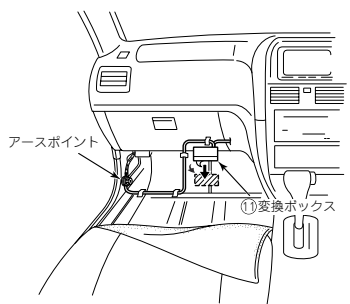


- 2 変換ボックスを助手席足元のカーペット下のフロア部分に取り付ける。

アドバイス

- 貼り付ける前に貼付位置表面の汚れ、水分、油分を十分にふき取ってください。

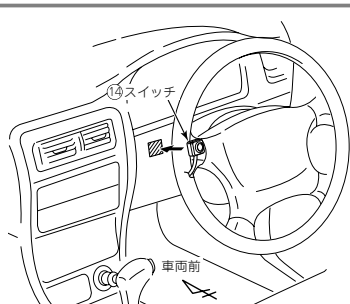
- 3 変換ボックスのアースコードをボディアースのとれる金属部分へ取り付ける。



- 4 スイッチをクラスターパネルの右横等、操作性の良い位置に取り付ける。

注意

- 運転操作の妨げになるような場所には取り付けないでください。



カメラ角度調整について

注意

- バックアイカメラを映し出す際は、車が動かないようサイドブレーキを引き、輪止めを必ず行ってください。思わぬ事故の原因となります。

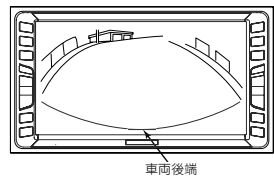
- 1 バックアイカメラコードをメインユニットに接続後、バッテリーにケーブルを接続する。

- 2 シフトをRレンジにし、車両後方映像を表示させる。

- 3 車両後端部（リアガラス、リアドア、リアバンパー等）が図のようにメインユニットまたは外部モニターの画面下に表示されるよう調整ねじを緩め、カメラの角度を調整する。

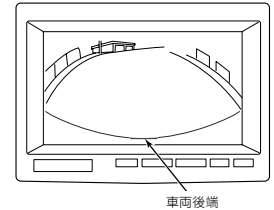
ーBEC105の場合ー

ECLIPSE AVN



ーBEC105Gの場合ー

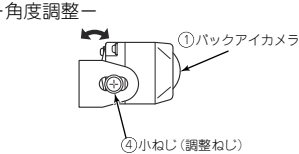
外部モニター



- 4 角度調整後、調整ねじをしっかりと締め付ける。この際、ブラケットの調整ねじの位置はブラケット長穴のどちらかの端になる位置で固定してください。

アドバイス

- バックアイカメラの角度調整の際、コードが突っ張らないように注意してください。
- 調整ねじは時々点検し、緩みがある場合は増し締めをしてください。



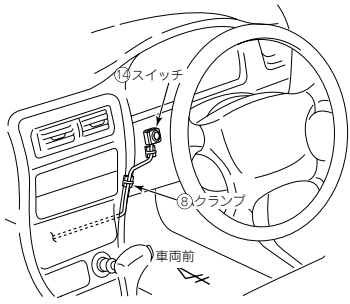
ー前後調整ー



- 5 スイッチコードをクランプで固定しながら変換ボックス取付位置まで配線する。

注意

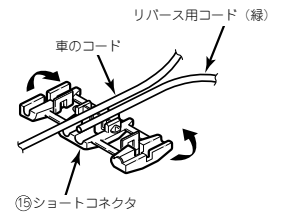
- コードを配線する際は、運転操作の妨げにならないように配線してください。



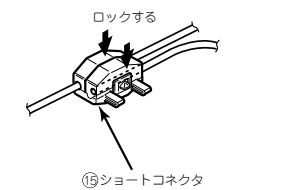
ショートコネクタ使用方法 (BEC105Gのみ)

- 1 リバース用コード（緑色）と車のコードをショートコネクタに挿入する。

- 2 ショートコネクタのターミナル（金属部）をブライヤー等で押し込む。



- 3 ショートコネクタのふたをかぶせブライヤやベンチ等でロックがかかるまではさみ込む。



バックアイカメラの映像について (BEC105Gのみ)

バックアイカメラの映像をモニターに表示させる要領は、以下の要領で表示させていただきます。

■ 変換ボックスのリバース端子と外部モニターのリバース端子を接続している場合

- 1 本機に付属のスイッチを押すとモニターにバックアイカメラの映像が表示されます。

- 2 再度スイッチを押すと画面が元に戻ります。

アドバイス

- スイッチを押してバックモニター画面の状態でも5分後には自動的に元の画面に戻ります。

■ 変換ボックスのリバース端子と外部モニターのリバース端子を接続していない場合

- 1 スイッチを押します。

- 2 モニターをバックアイカメラを接続している映像モード（ビデオ等）に切り替えるとバックアイカメラの映像が表示されます。（組み合わせるモニターの説明書を参照してください。）

- 3 再度スイッチを押すとバックアイカメラがOFFになります。

- 4 モニターの映像モードを元に戻します。（組み合わせるモニターの説明書を参照してください。）

アドバイス

- スイッチを押してバックモニター画面の状態でも5分後には自動的に元の画面に戻ります。